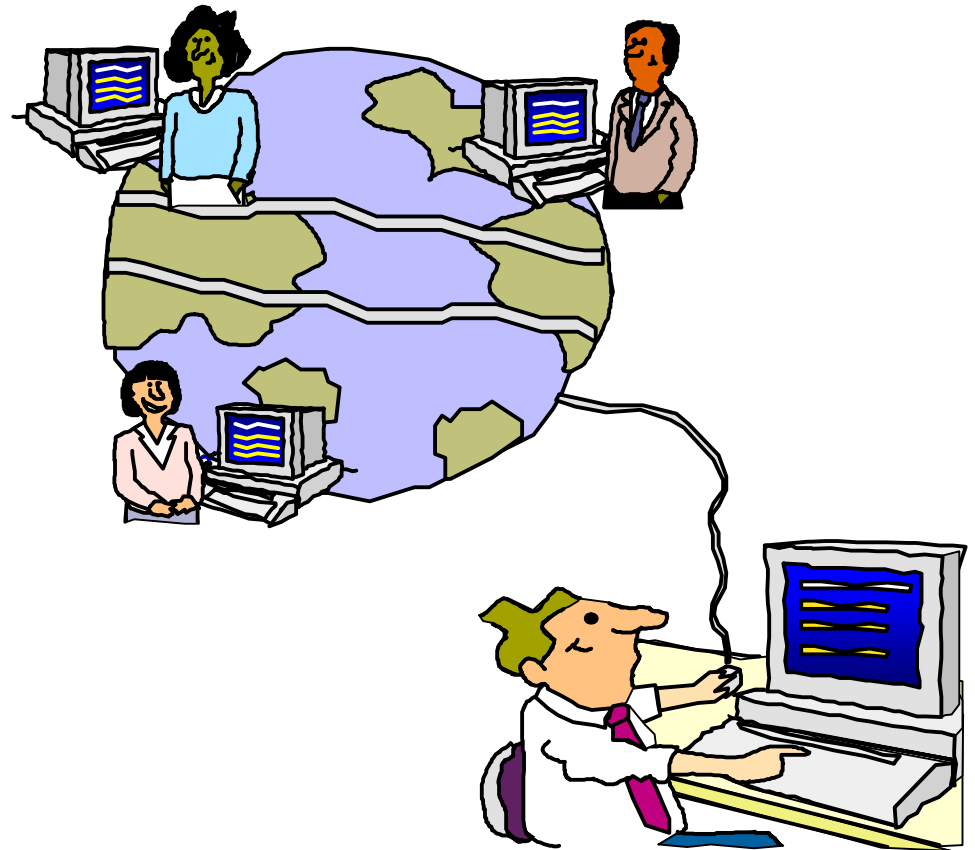


# 普遍経済学入門

贈与と時間とキアスムと

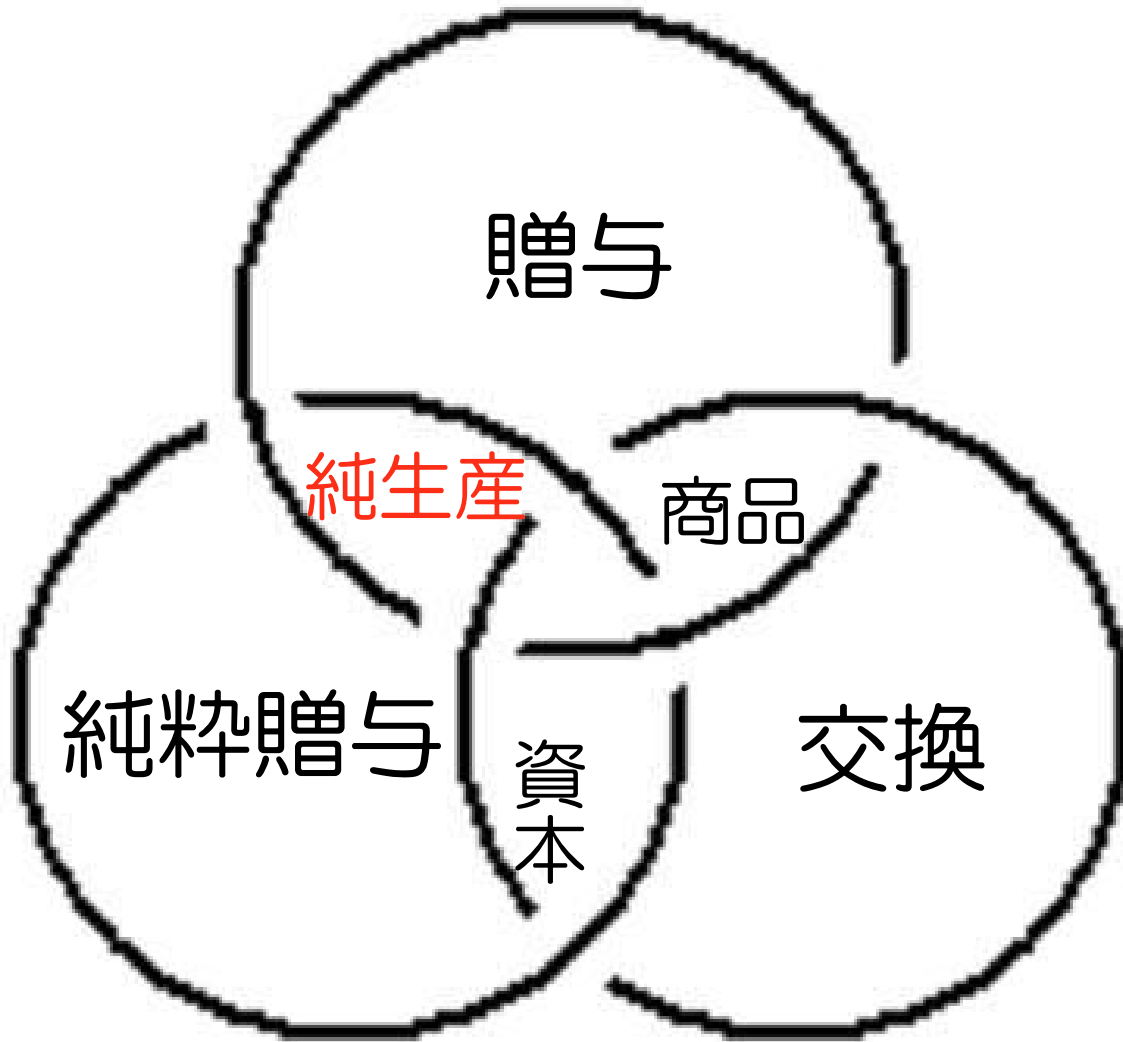


2009年3月28日  
桃組春の勉強会

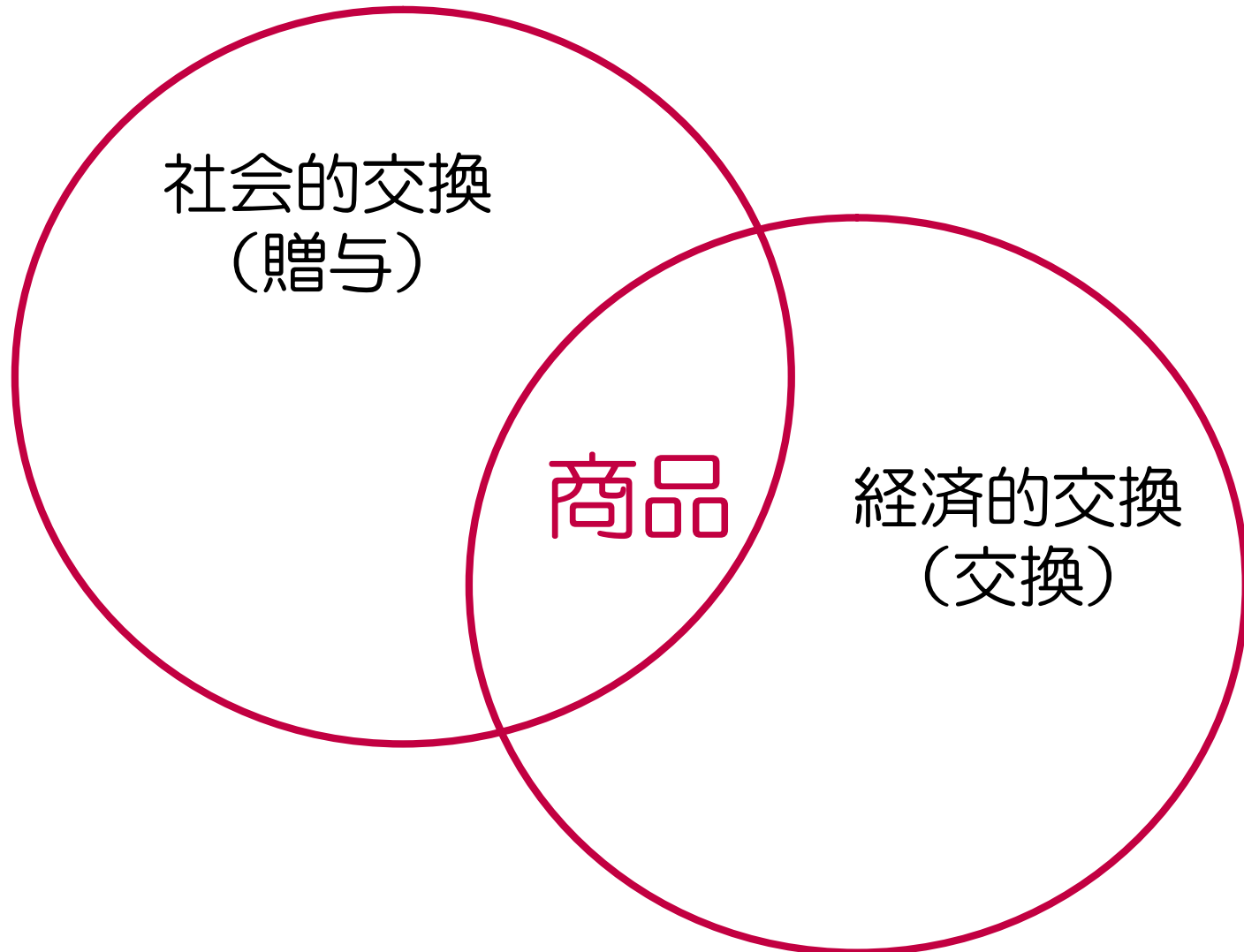
このプレゼンのテーマ

専門的にならずに  
全体として  
見ること

# 普遍経済学(全体としての経済)



# 限定経済学(主流の経済学) 〈贈与／交換〉



# 贈与 / 交換



# 交換の原理

商品はモノである。つまり、そこにはそれをつくった人や前に所有していた人の人格や感情などは、含まれていないのが原則である。

ほぼ同じ価値をもつとみなされるモノ同士が、交換される。商品の売り手は、自分が相手に手渡したモノの価値を承知していて、それを買った人から相当な価値がこちらに戻ってくることを、当然のこととしている。

モノの価値は確定的であろうとつとめている。その価値は計算可能なものに設定されているのでなければならない。

# 贈与の原理

贈り物はモノではない。モノを媒介にして、人と人との間を人格的ななにかが移動しているようである。

相互信頼の気持ちを表現するかのよう、お返しは適当な間隔をおいておこなわれなければならない。

モノを媒介にして、不確定で決定不能な価値が動いている。そこに交換価値の思考が入り込んでくるのを、デリケートに排除することによって、贈与ははじめて可能になる。

普遍経済学を意識したきっかけ

Web2.0

というか

Google



# Google

は

〈交換/贈与〉の

バイナリーではとらえ

きれない。

無 料 糸 又  
無 料 糸 土

濟

# Google

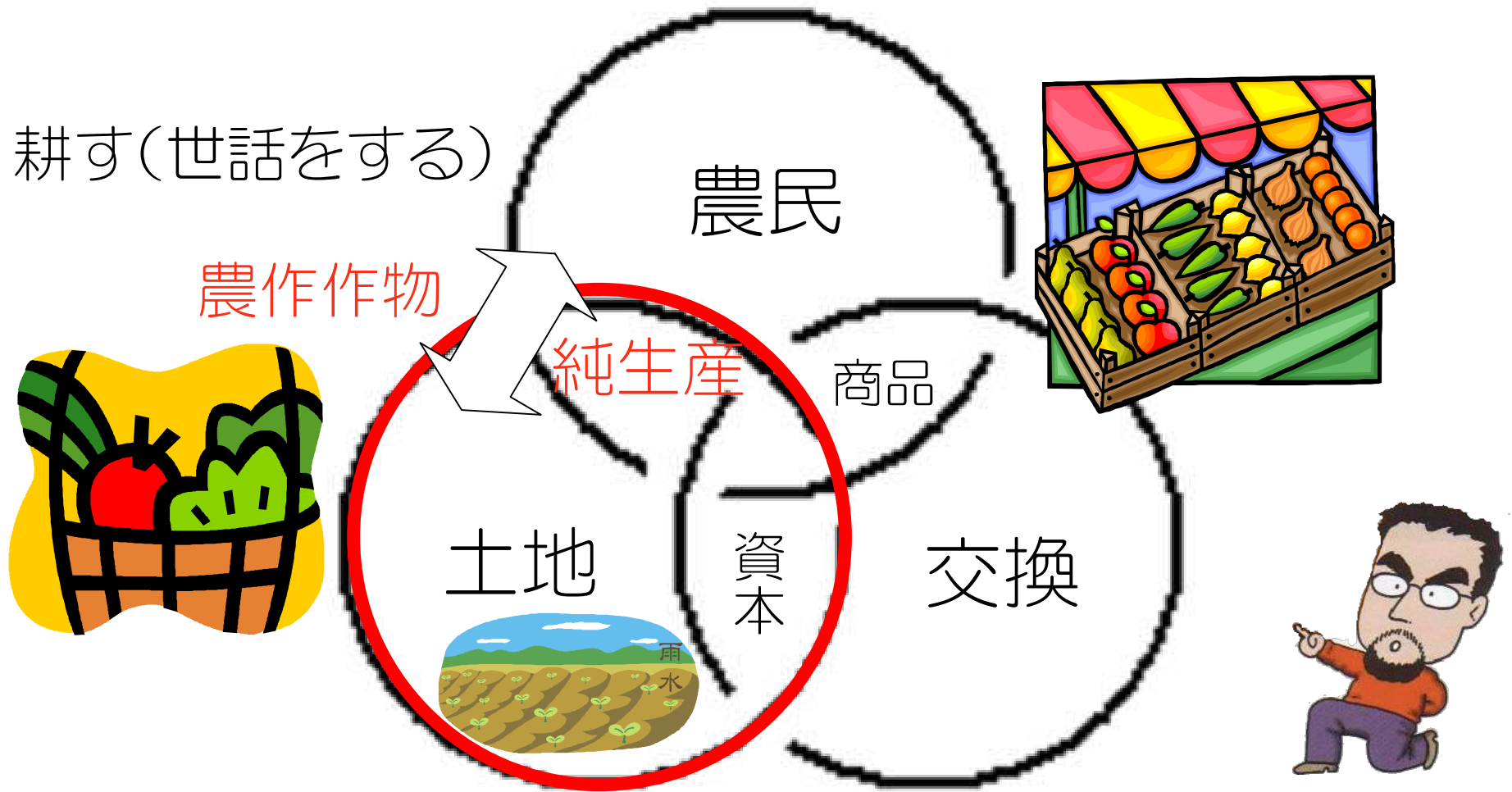
## の時価総額

- トヨタ: 11兆円
- NTTドコモ: 6兆3千億円
- 三菱UFJ: 6兆円

それは  
如何ににして  
可能な  
なのか

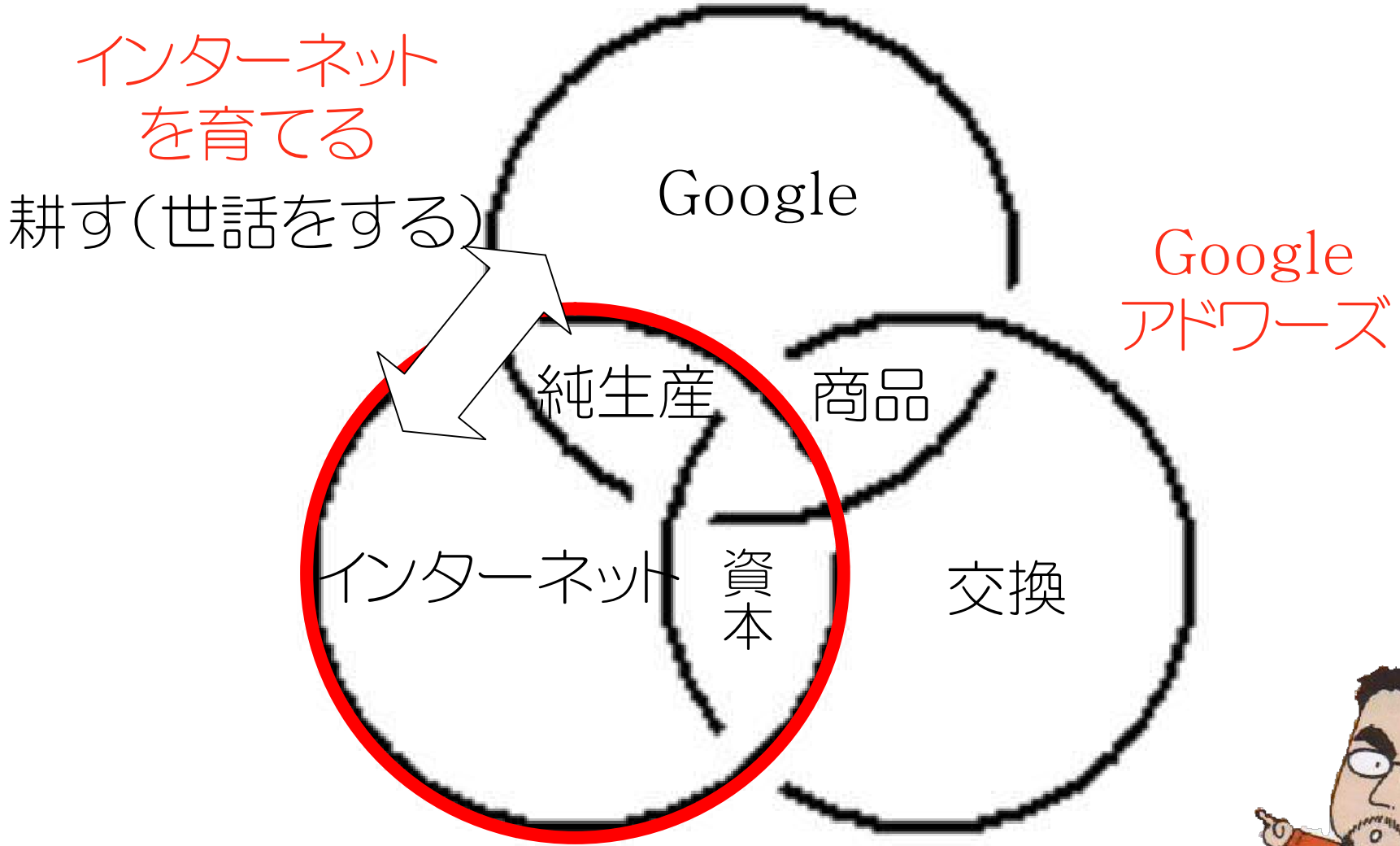
# (自然)純粋贈与への 関与

# 農業の三位一体モデル



交換は後から接続されることで純生産が商品に転換する。

# Googleの三位一体モデル



純粹贈与は  
聖霊のように  
価値を増殖させる



# コルヌコピア



主神ゼウスが幼少時、父神クロノスから逃れて隠れ住んだ山中で、ゼウスの世話をしていた牝山羊アマルティアの角からは、神酒ネクタルと神の食物アンブロシアが止め処なく湧き出して彼らを潤していたといわれます。

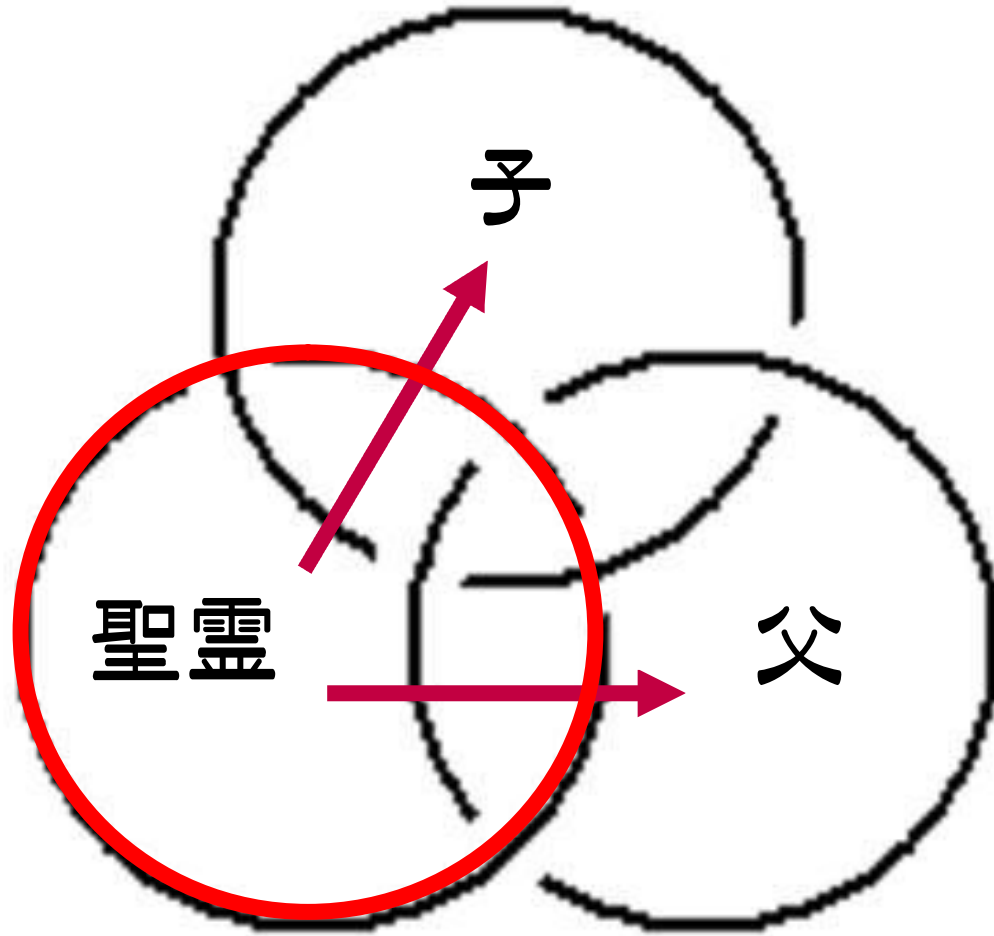


# コルヌコピア

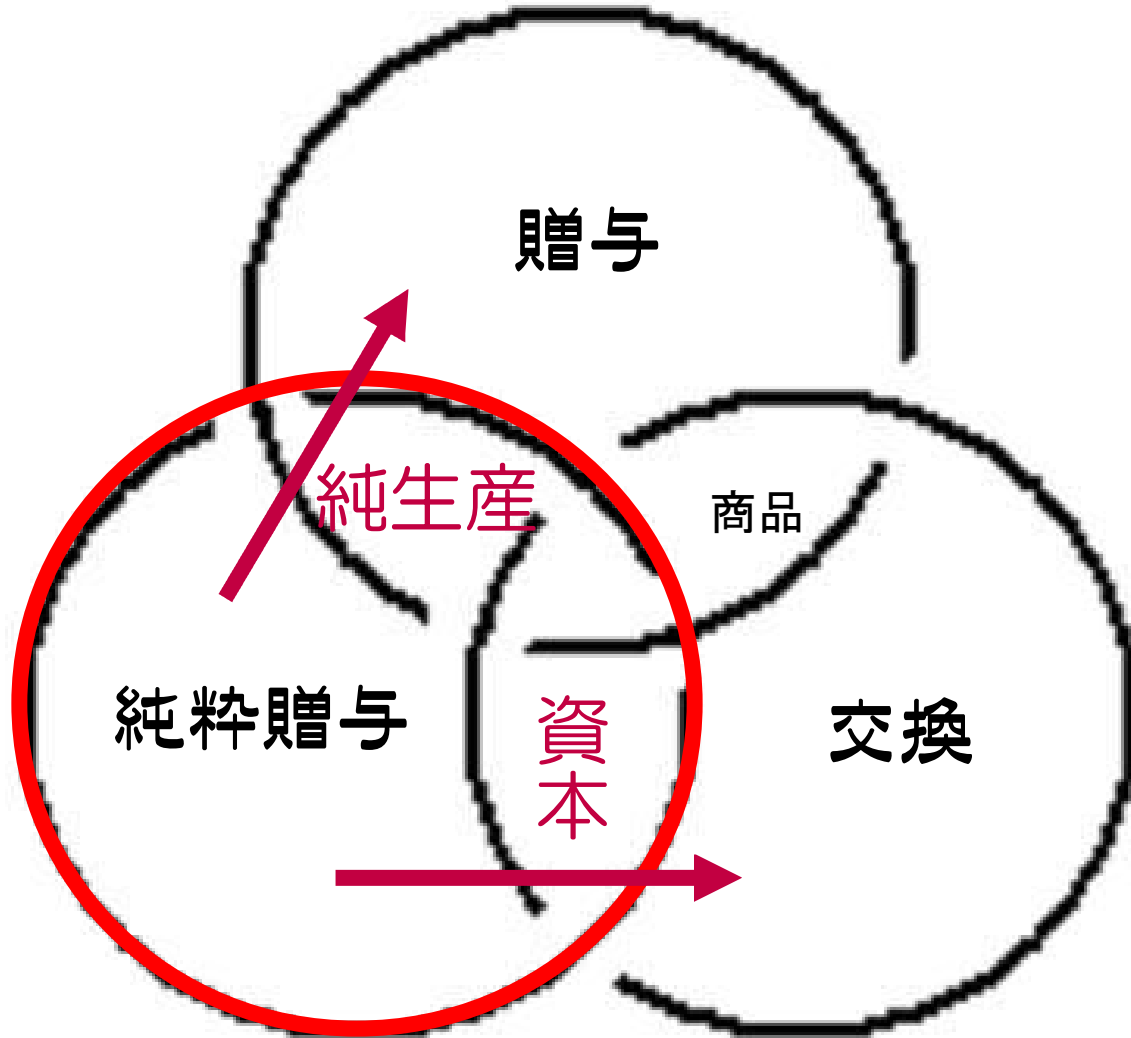


コルヌコピアを持つローセルのヴィーナス

# キリスト教(カソリック) 三位一体



# 全体としての経済



# 金融資本主義 について

金融資本主義とは  
人間の〈欲望〉を  
すべて商品に  
書き換えようとした  
運動では？



# ルネ・マグリット 「夢の解釈」

おカネは  
メタ欲望である

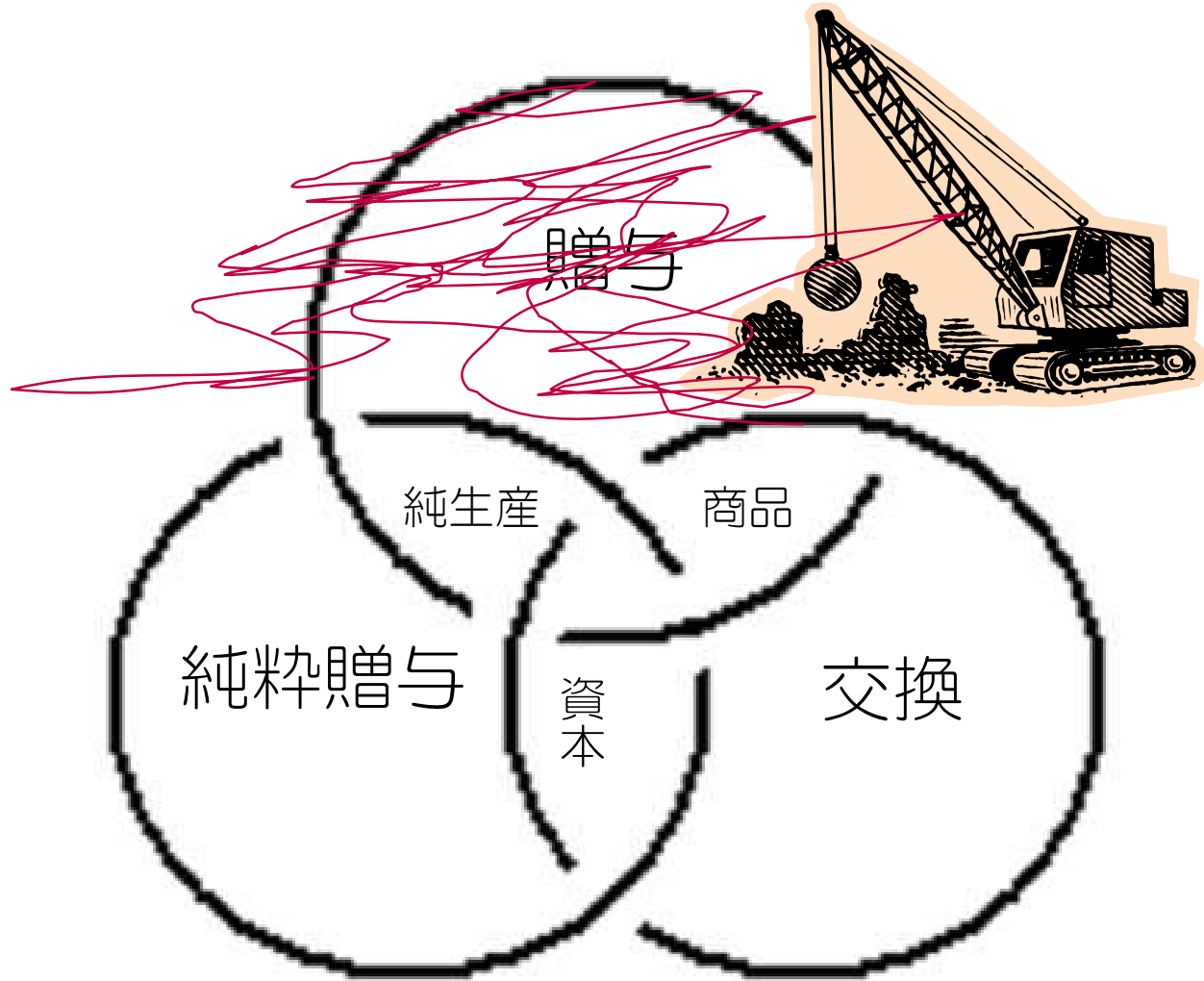


その何が問題  
だったのだろうか？

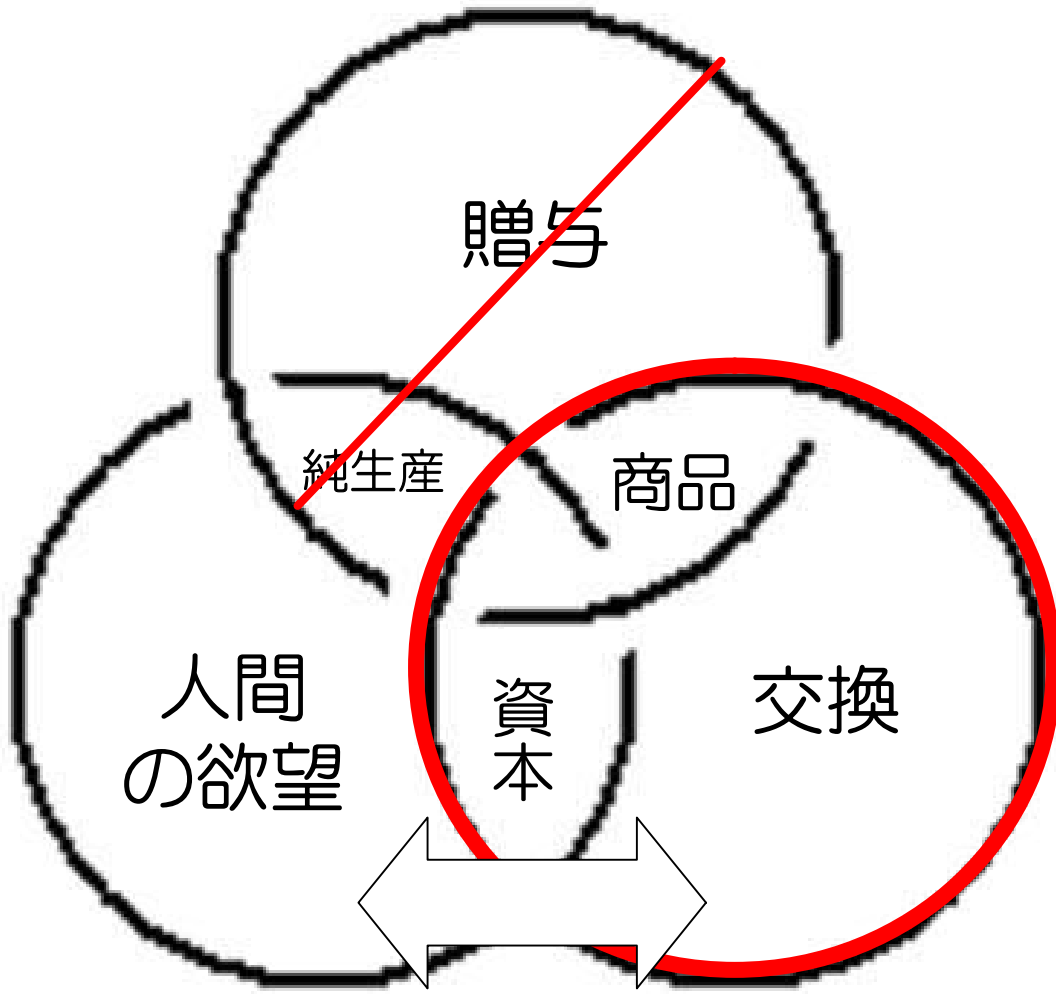




# 贈与という共同体性の破壊



# 破綻した金融資本主義のモデル には贈与(時間軸)がない



技術的に刺激する



時間軸あり

ゴーイング・コンサーン  
(継続する事業関連体)  
ステイク・ホルダー型の企業組織



コーポレート・ガバナンスの変化

時間軸なし

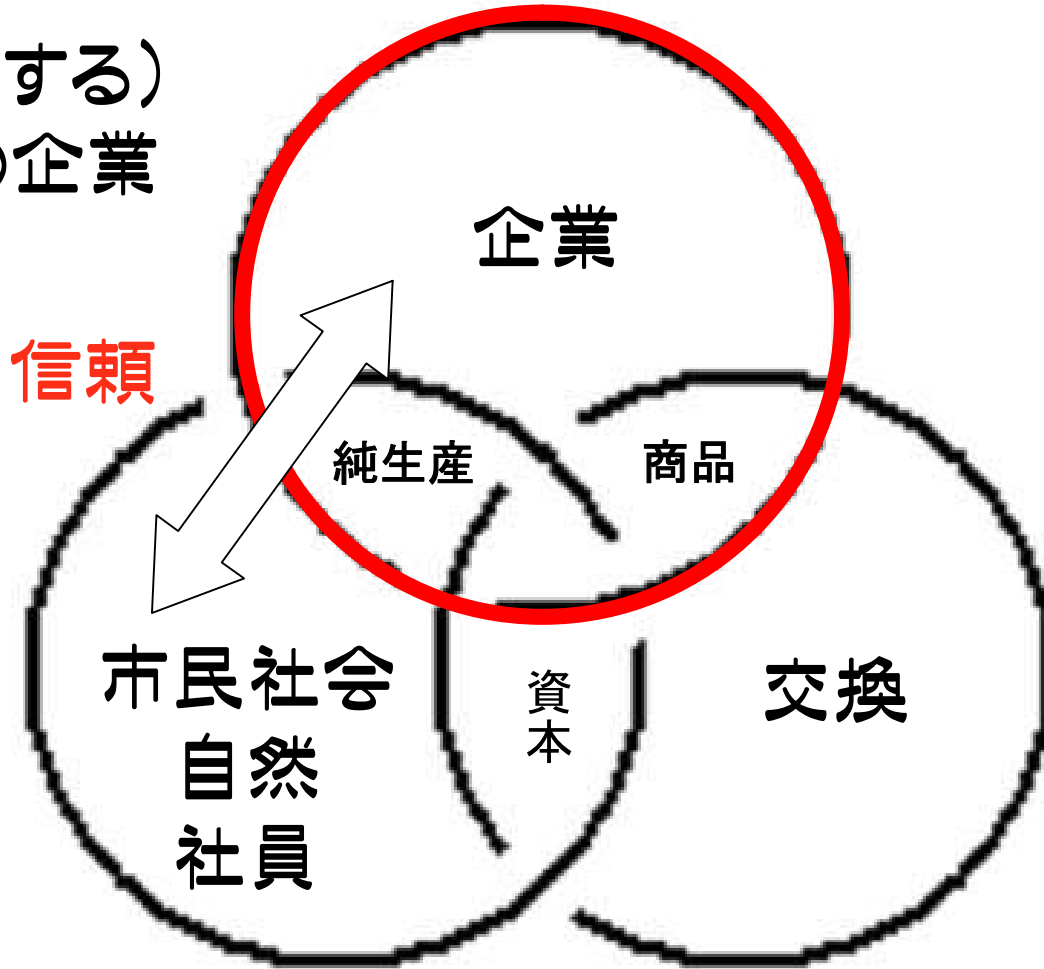
株主至上主義  
ストック・ホルダー型の企業組織

時間軸＝組織観のない  
コーポレート・ガバナンスなら  
派遣社員で十分



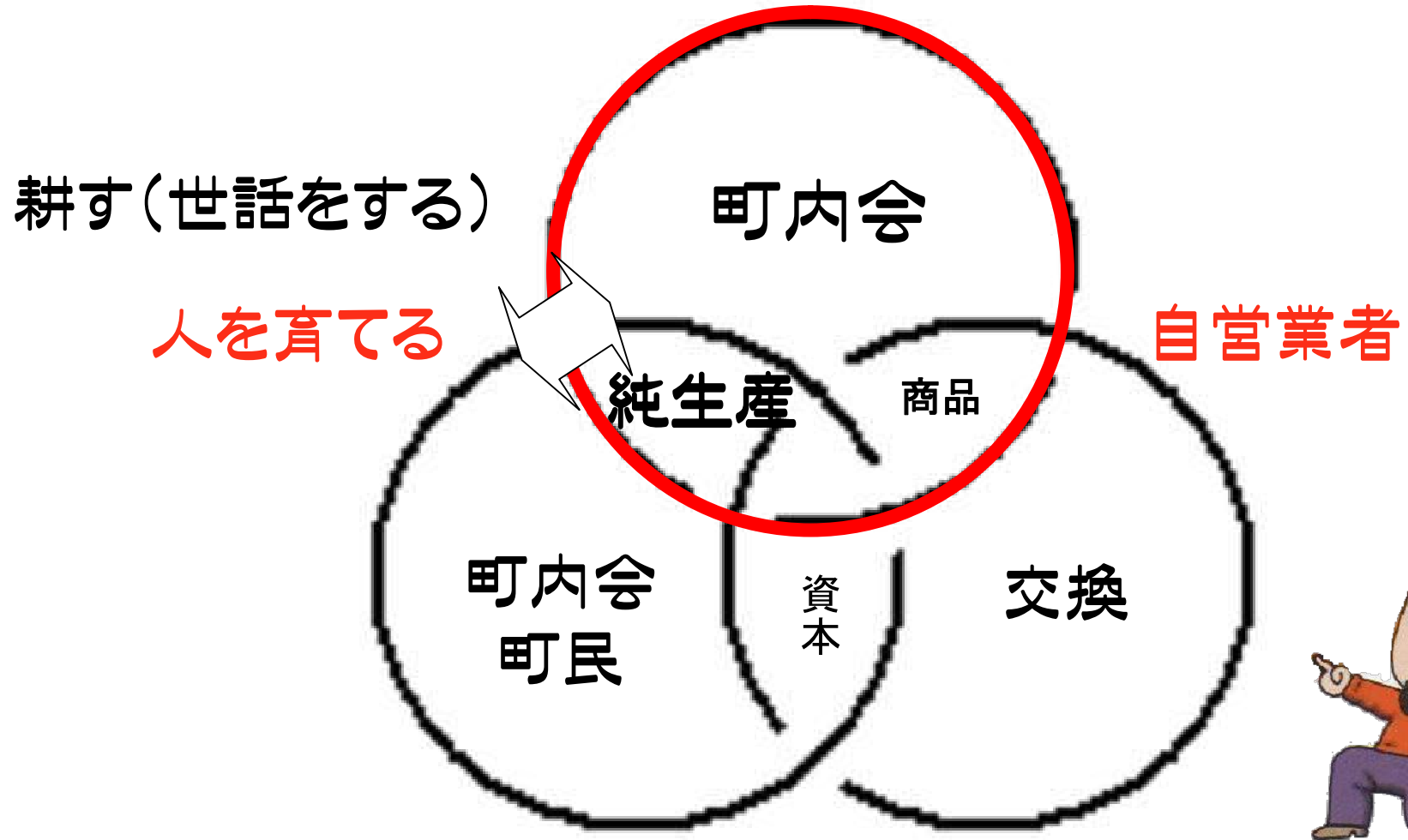
# ゴーイング・コンサーン型 企業の三位一体モデル

耕す(世話をする)  
「種」としての企業

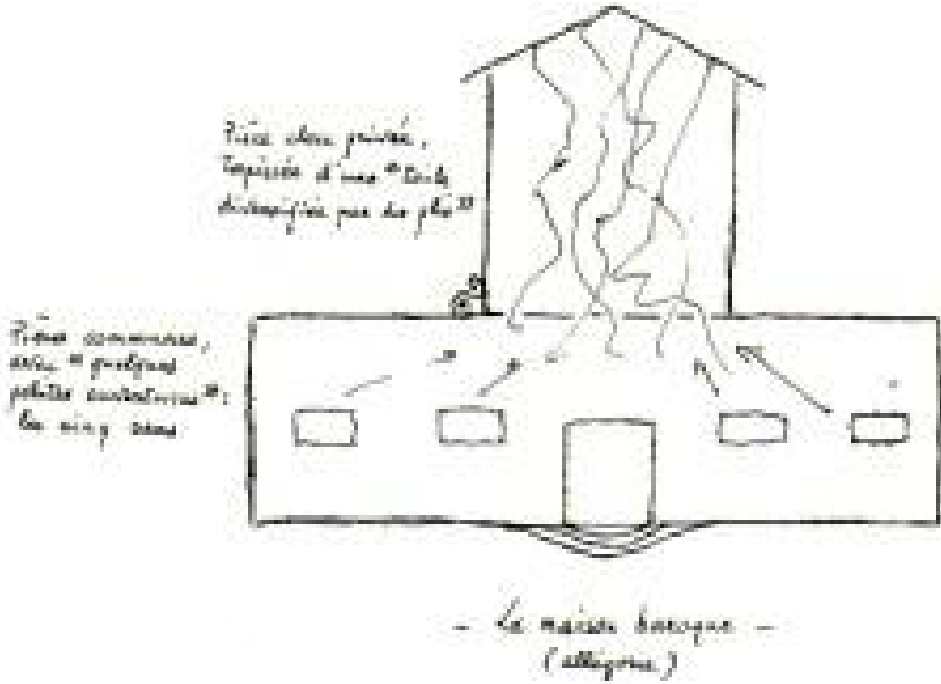


交換は後から接続されることで  
純生産が商品に転換する

# 浅草の三位一体モデル



交換は後から接続されることで  
純生産が商品に転換する



# バロックの館

「闇によって変化をつけた形」を語りぬぐるせた附いた例証

「いくらかの小さい開山部」のある共同の部屋：五間

バロックの館  
（アンゴラー）

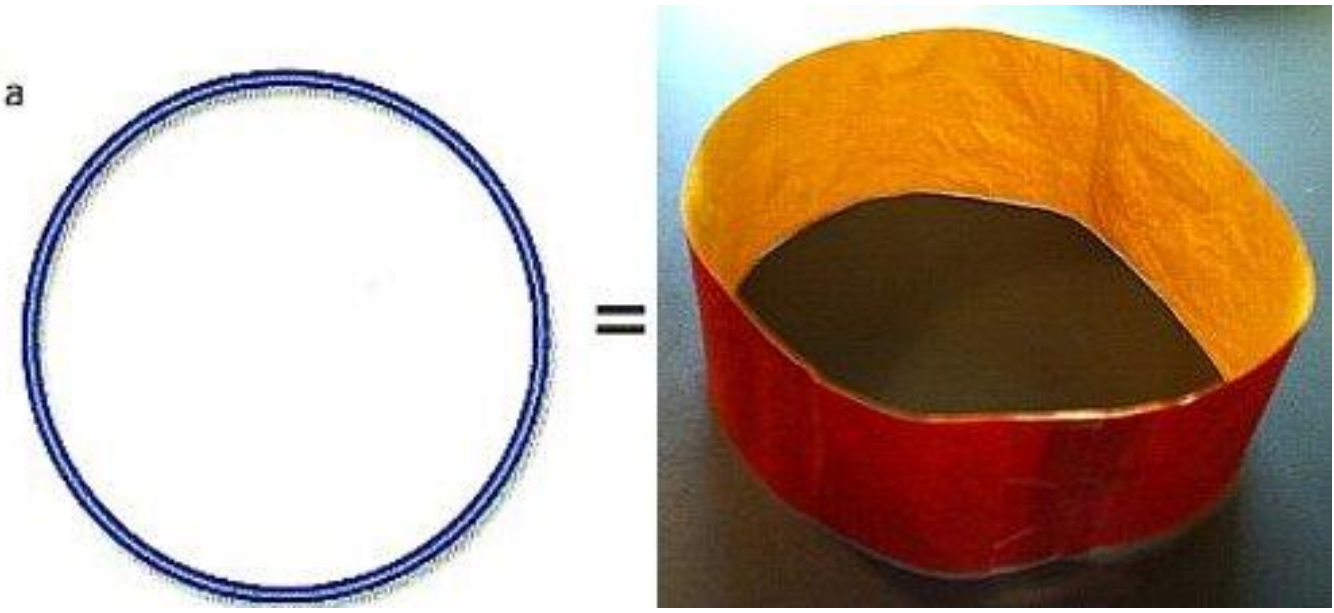
# 贈与 共同体



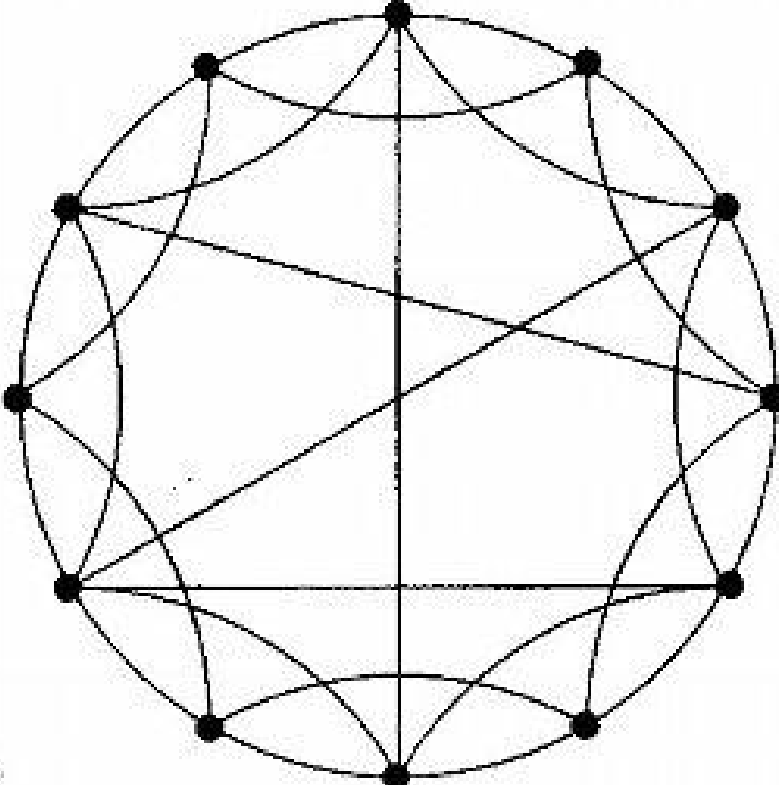
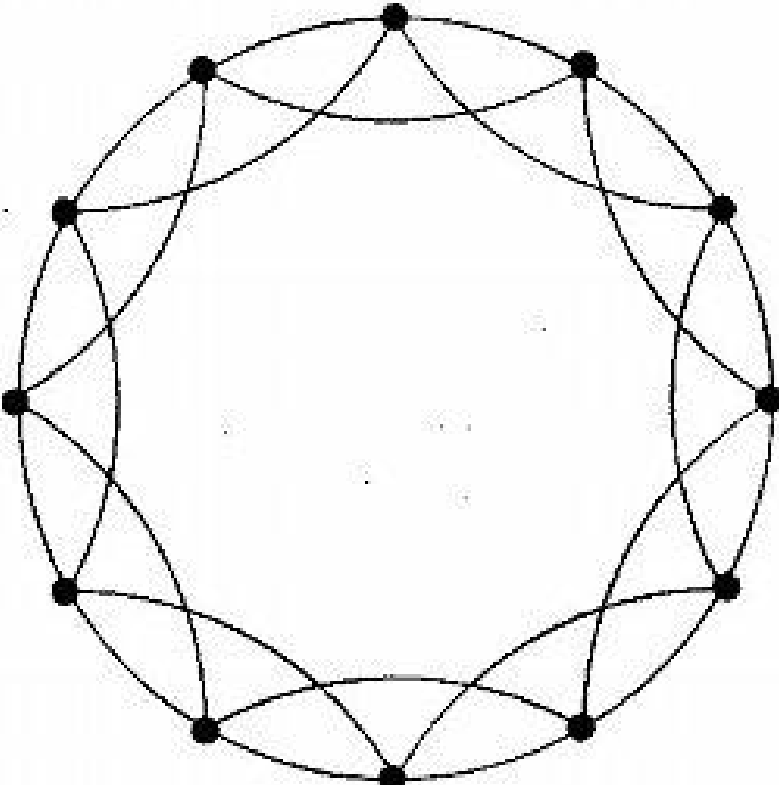
# 共同体モデル

- 共同体は農村的
- 安定した同一性をそなえた空間。
- 合理のシステム。
- 農業民。定着。土地に人々は結びつき、それを土台として権力は成り立つ。
- 人々を結びつけるさまざまな「縁」でできている。人の社会的地位はその縁によって決定される。同一性の原理が働く。
- 排他的な超越する神。「正しさ」を支える法の神。

# 共同体のトポロジー



# 閉じたクラスター



# ランダム・ネットワーク

## ランダム・ネットワーク

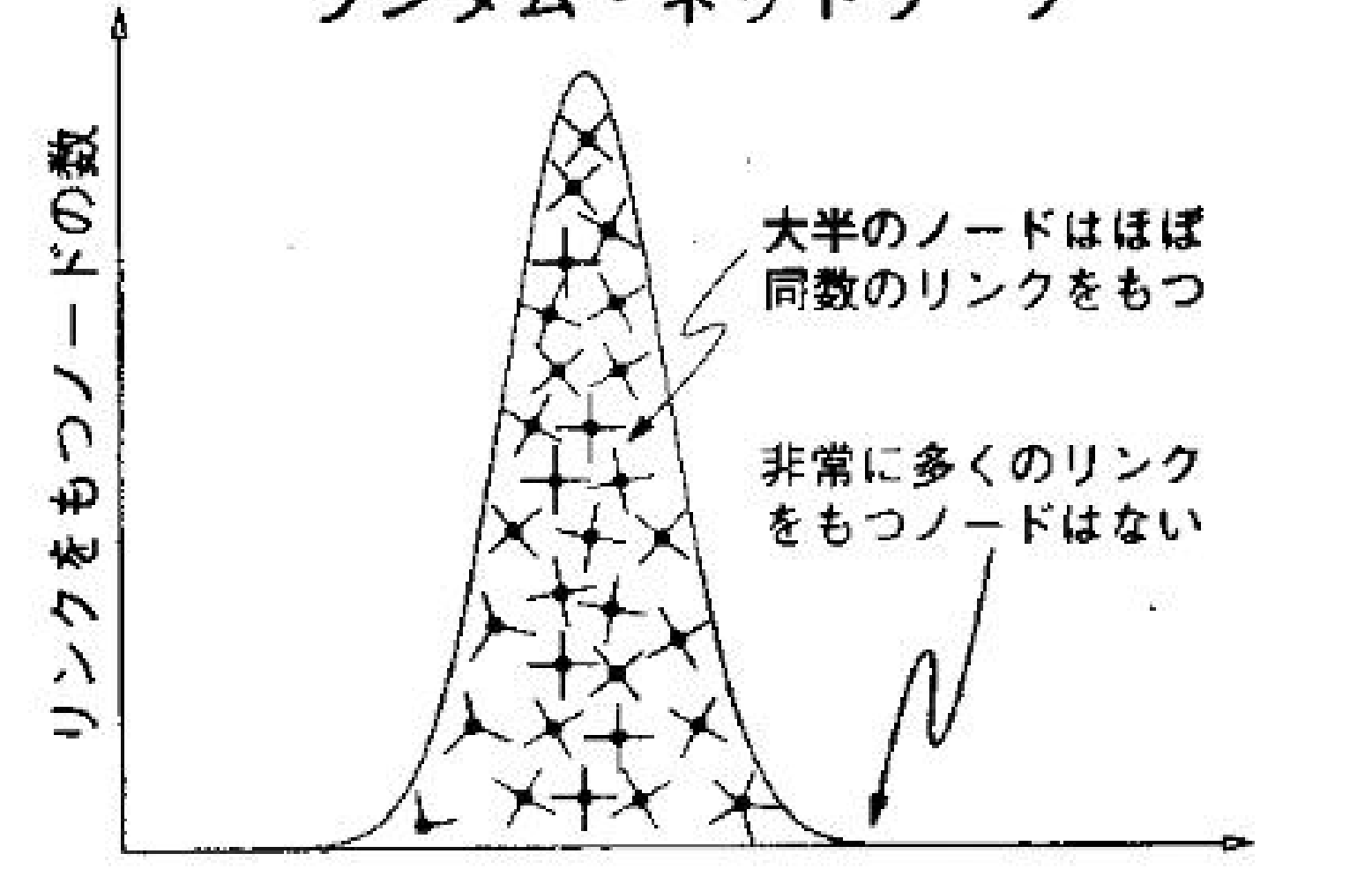
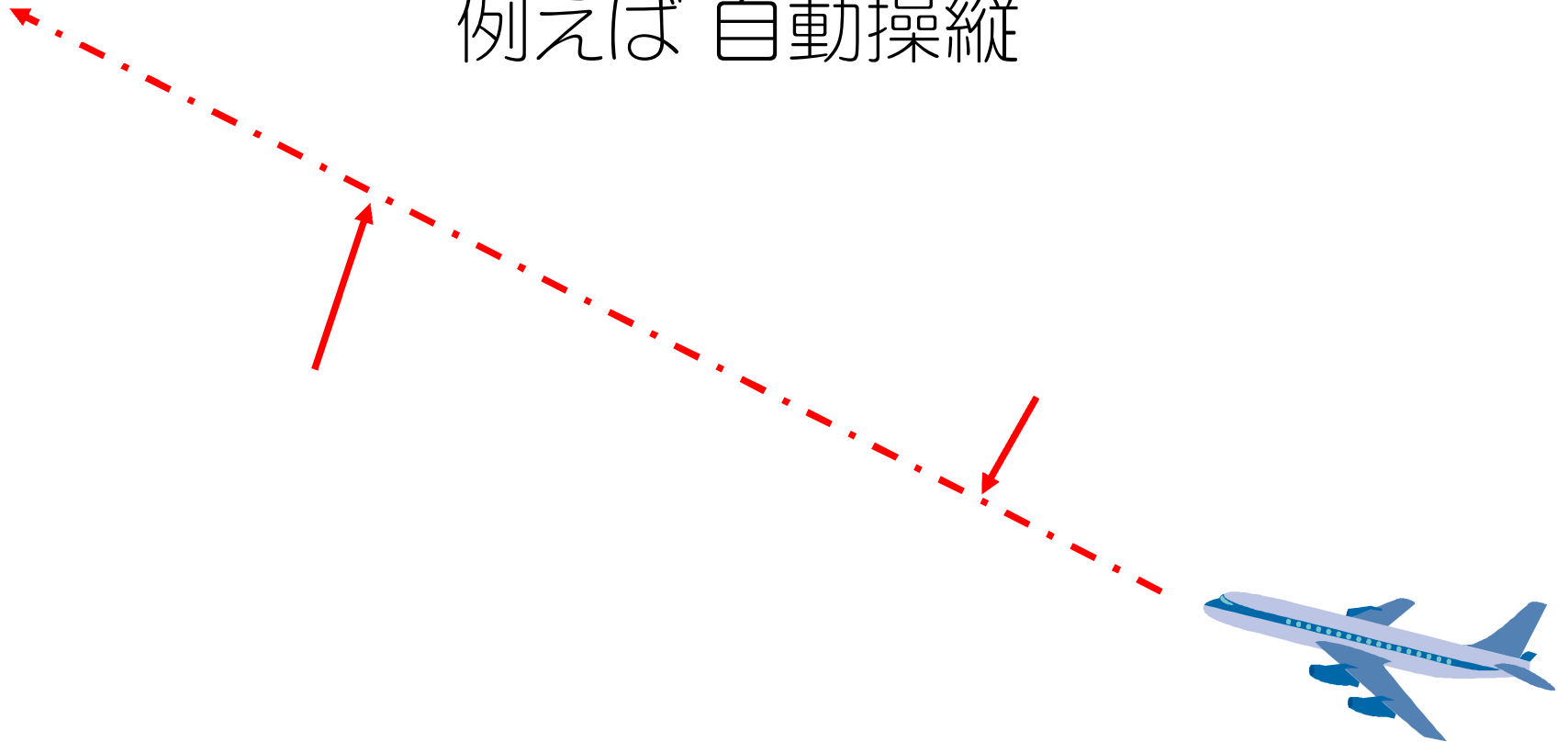


図: [新ネットワーク思考](#) アルバート=ラズロ・バラバシ(著) 青木薫(訳) 2002年12月20日 NHK出版 p103

# 負のフィードバック

一定状態が安定に存在する

例えば 自動操縦



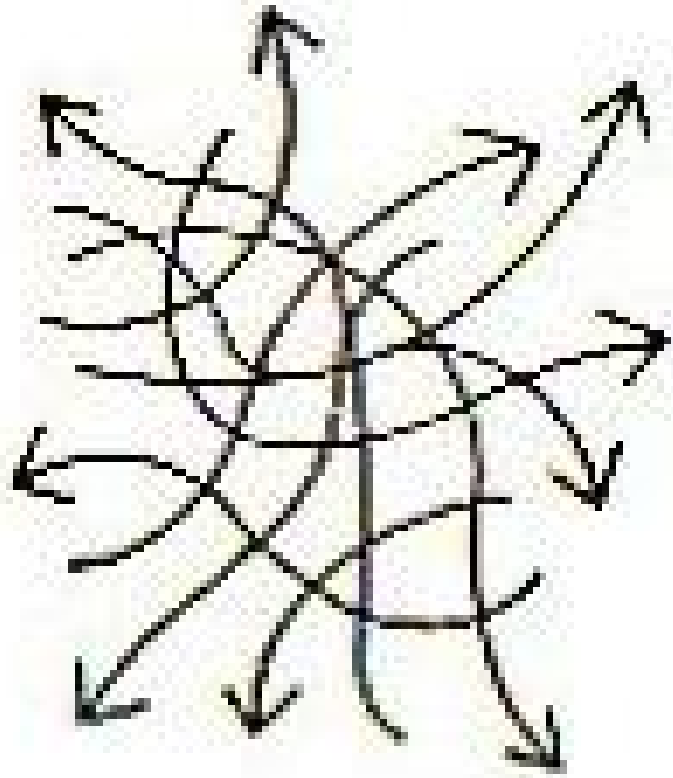
偶然以外には  
外とつながらない  
という欠点

おぼん  
のような  
世界

円環を切断する



# リズム



## スケールフリー・ネットワーク

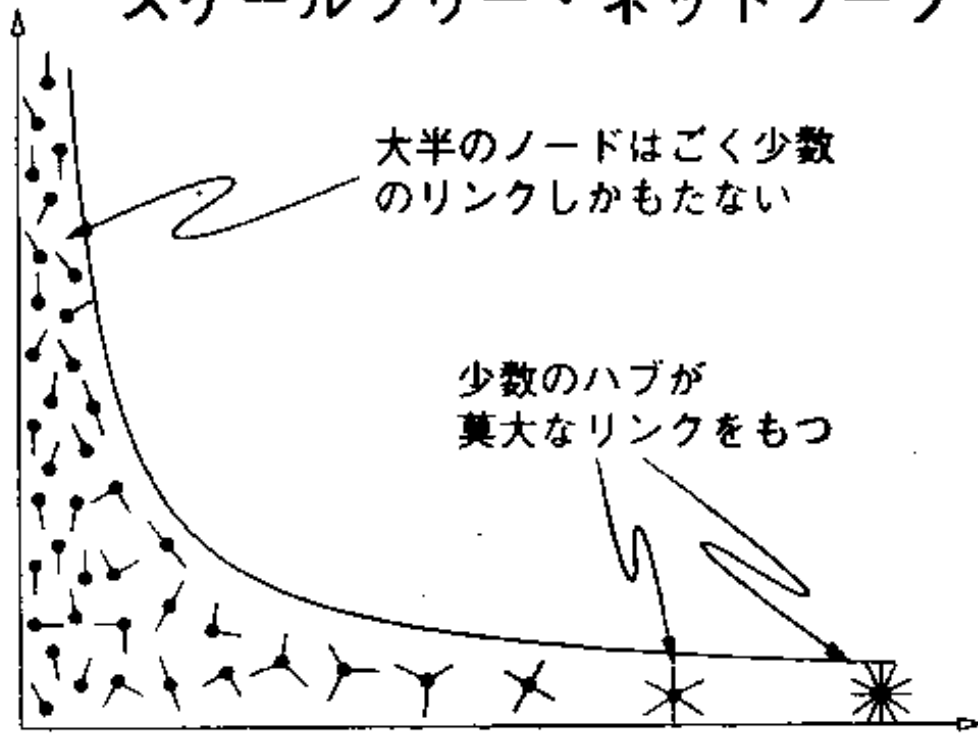


図: 新ネットワーク思考 アルバート=ラズロ・バラバシ(著) 青木薫(訳) 2002年12月20日 NHK出版 p103

ベキ法則

=パレートの法則

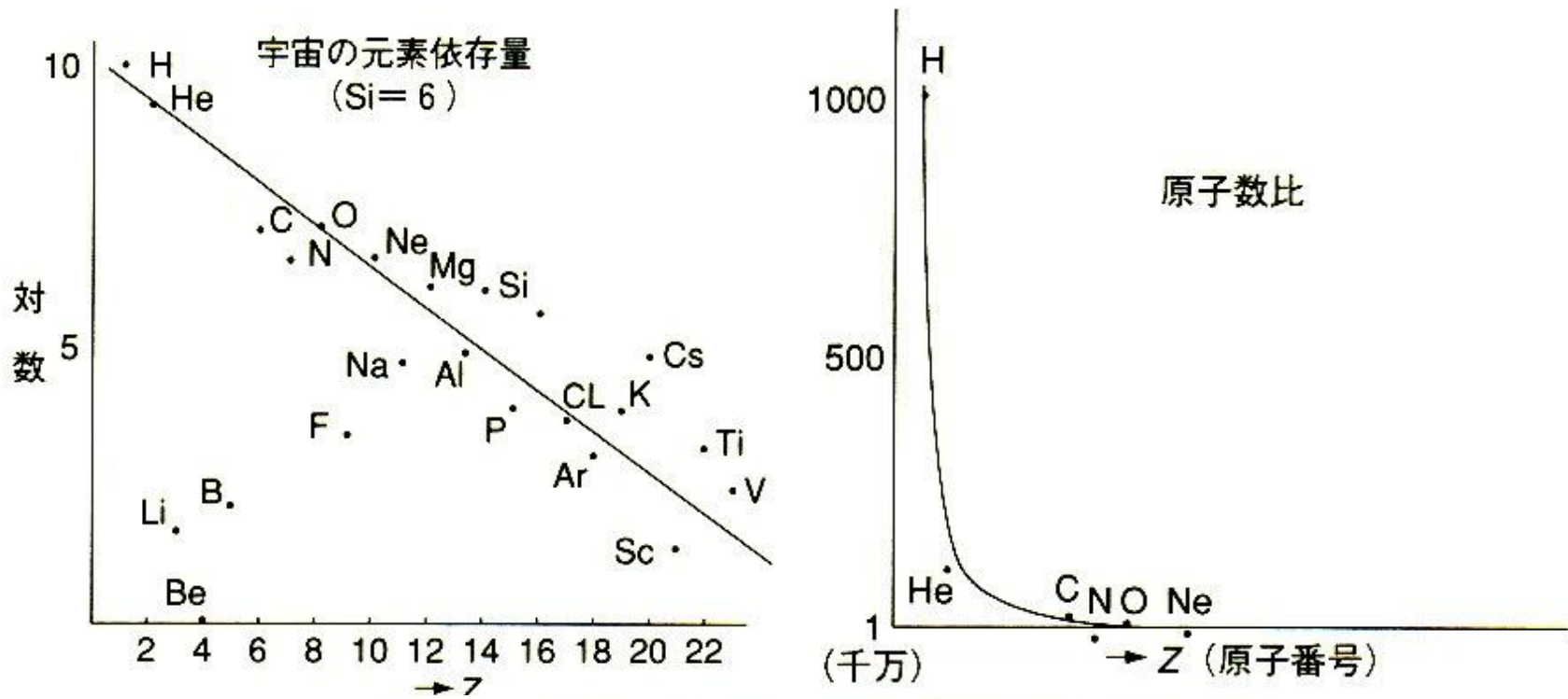
=80対20の法則

1. 「不公平性」
2. 「スケール・フリー性」、あるいはフラクタル (自己相似) 性
3. 「無限大の分散」



スケールフリーは  
「自然」が収斂する  
かたち  
ではないのだろうか

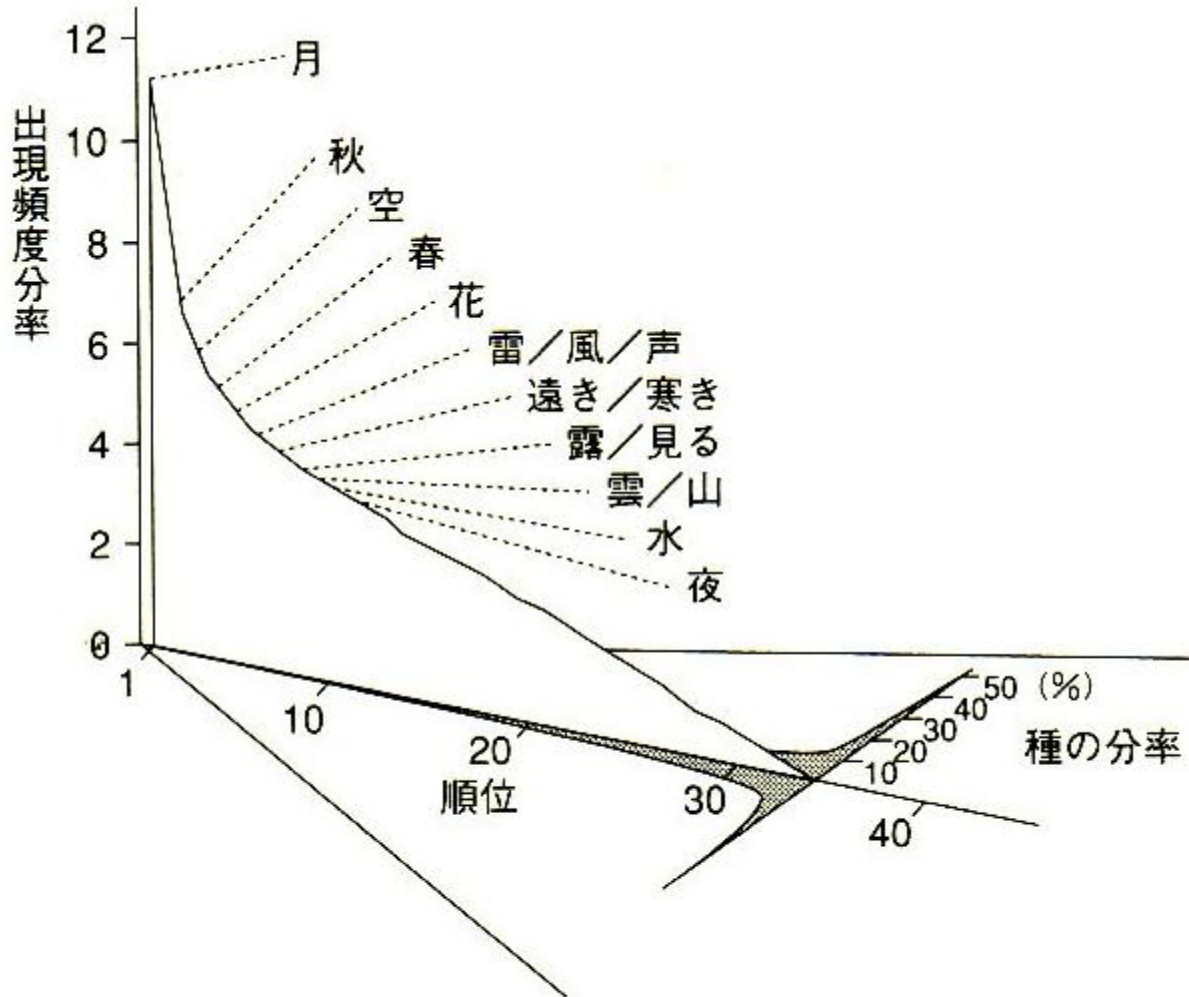
# 自然としての普遍と個の共存



第3図 宇宙における元素の存在量と原子番号の関係

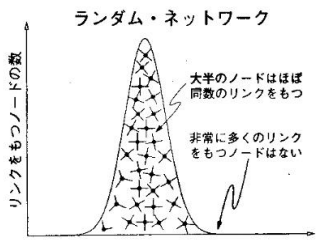
リチウム (Li)、ベリリウム (Be)、ホウ素 (B)、フッ素 (F) を例外として全体を概観すると、元素の存在量と原子番号とは指数関係にあることが上の直線関係で窺われる。

# 言語における普遍と個の共存



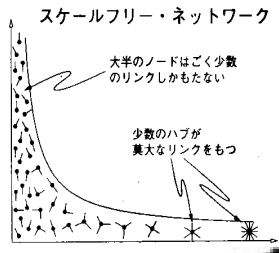
第4図(1) 連歌の語彙の出現頻度とその順位の関係 (全体の概況)

# 新しいネットワーク観の必要性

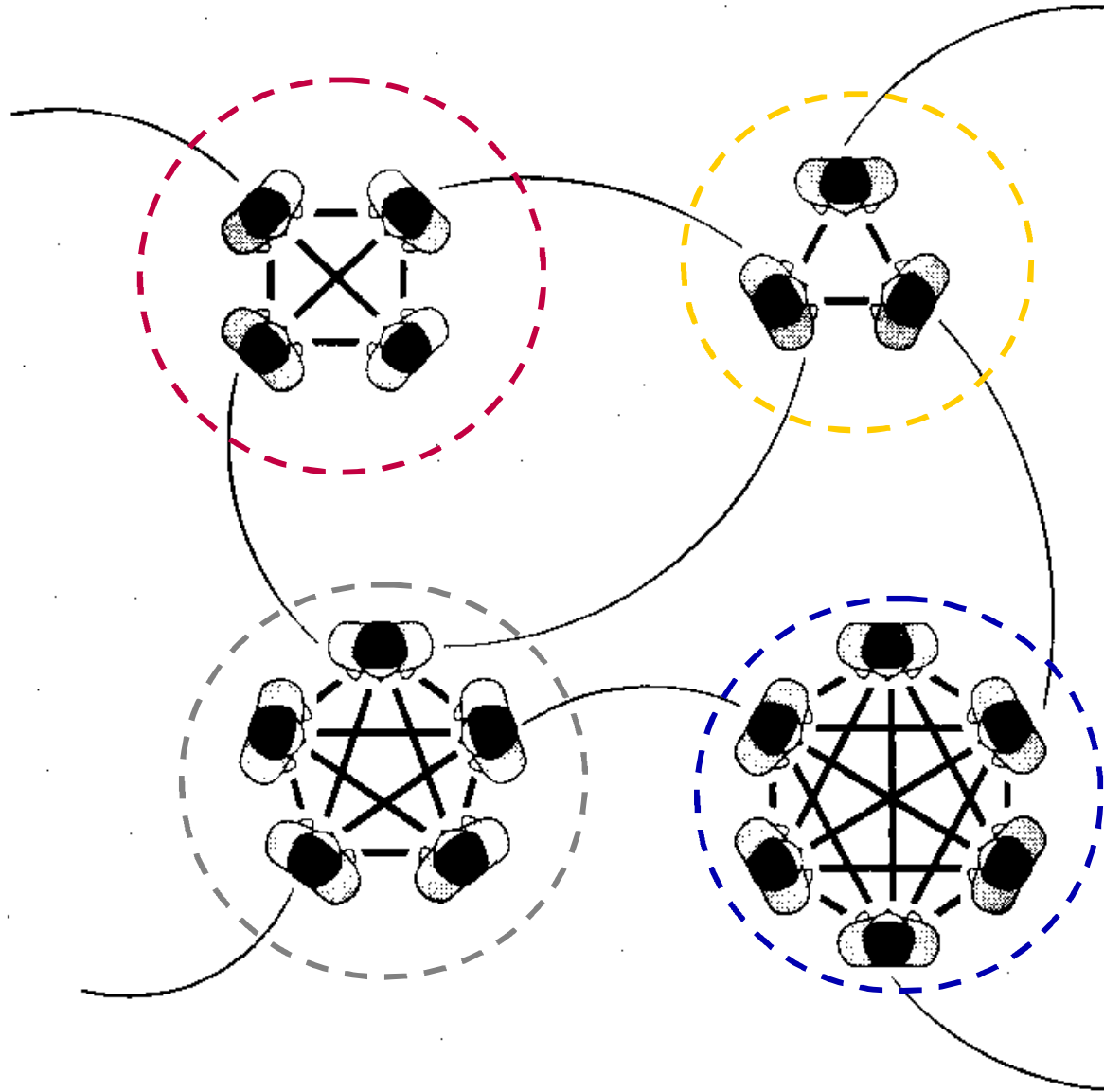


ランダム

スケールフリー

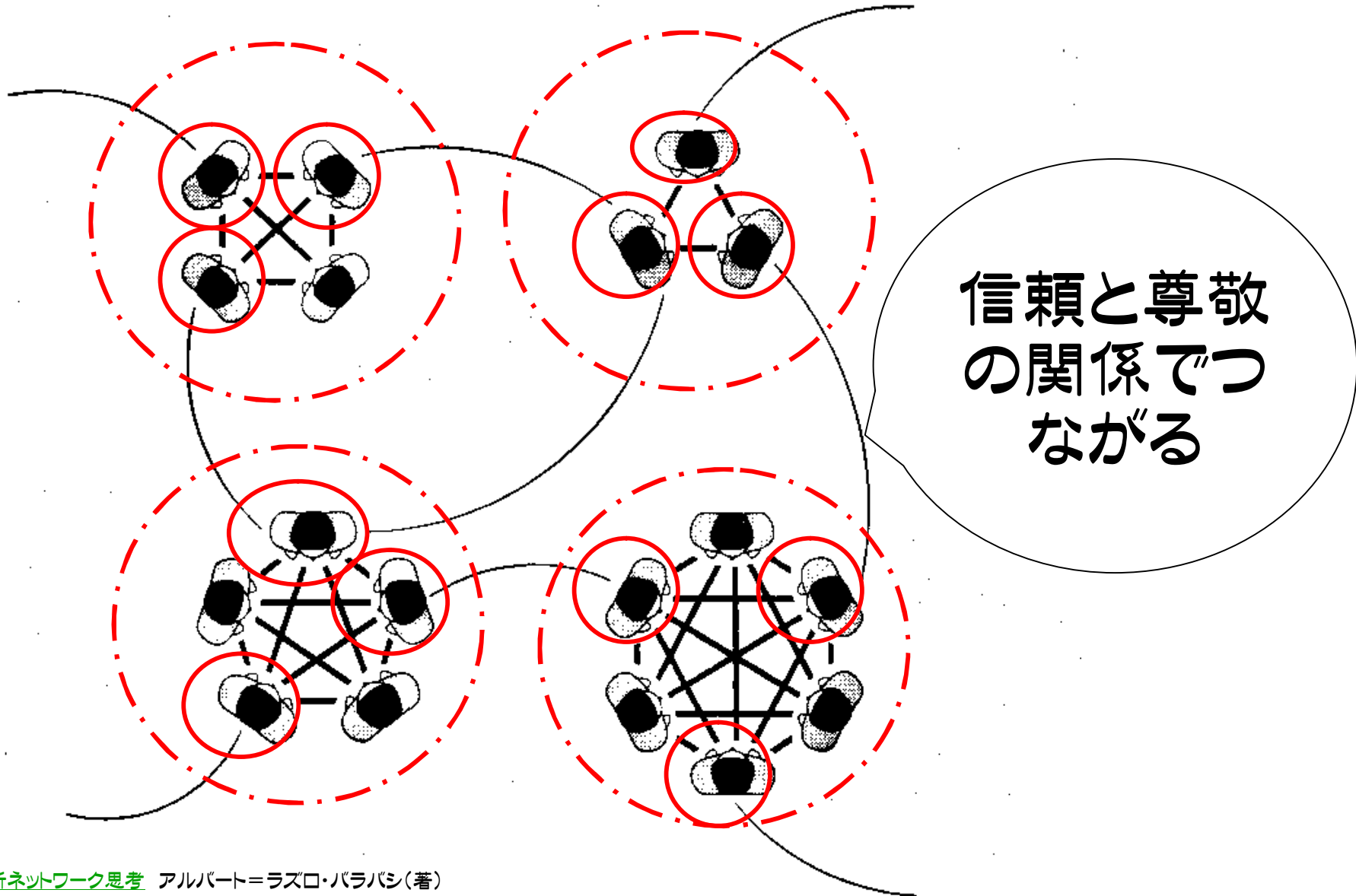


# 広くて薄い紐帯



図：アルバート＝ラスロ・バラバシ，「新ネットワーク思考」，p66

# 信頼と尊敬の関係でつながる



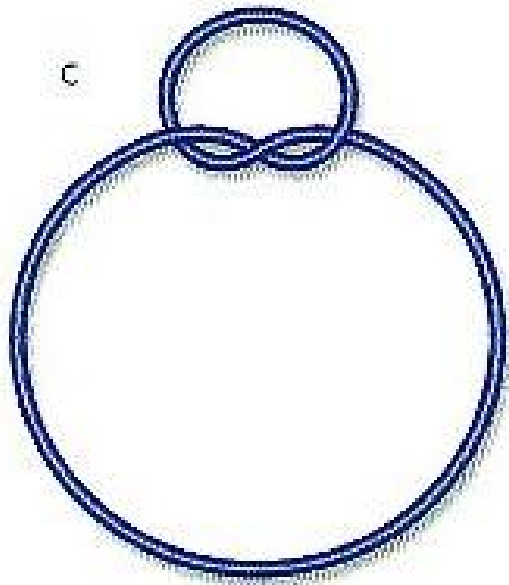


共同体性を保ちながら  
外とつながること  
ツイスト(ひねり)

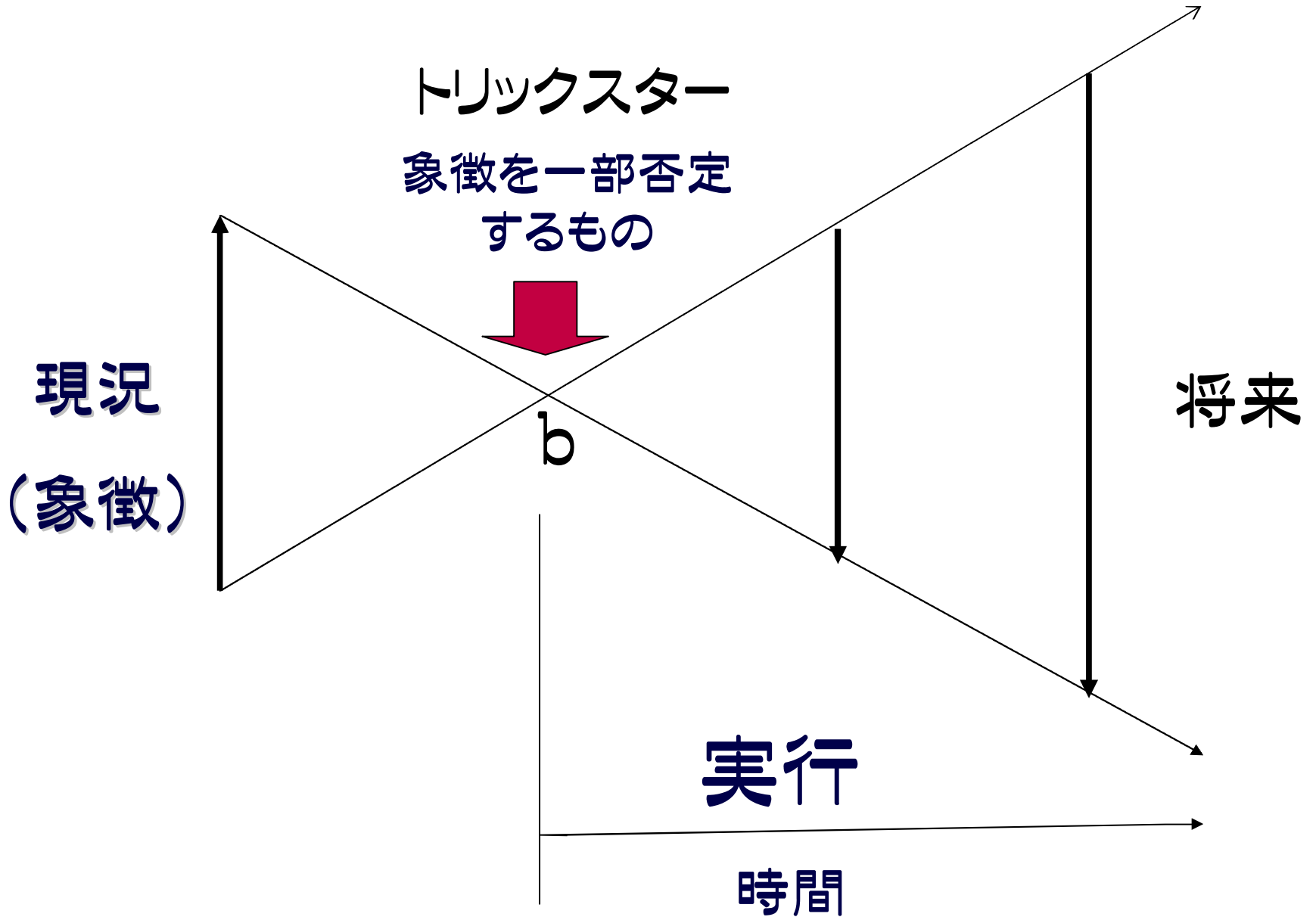
ひねり



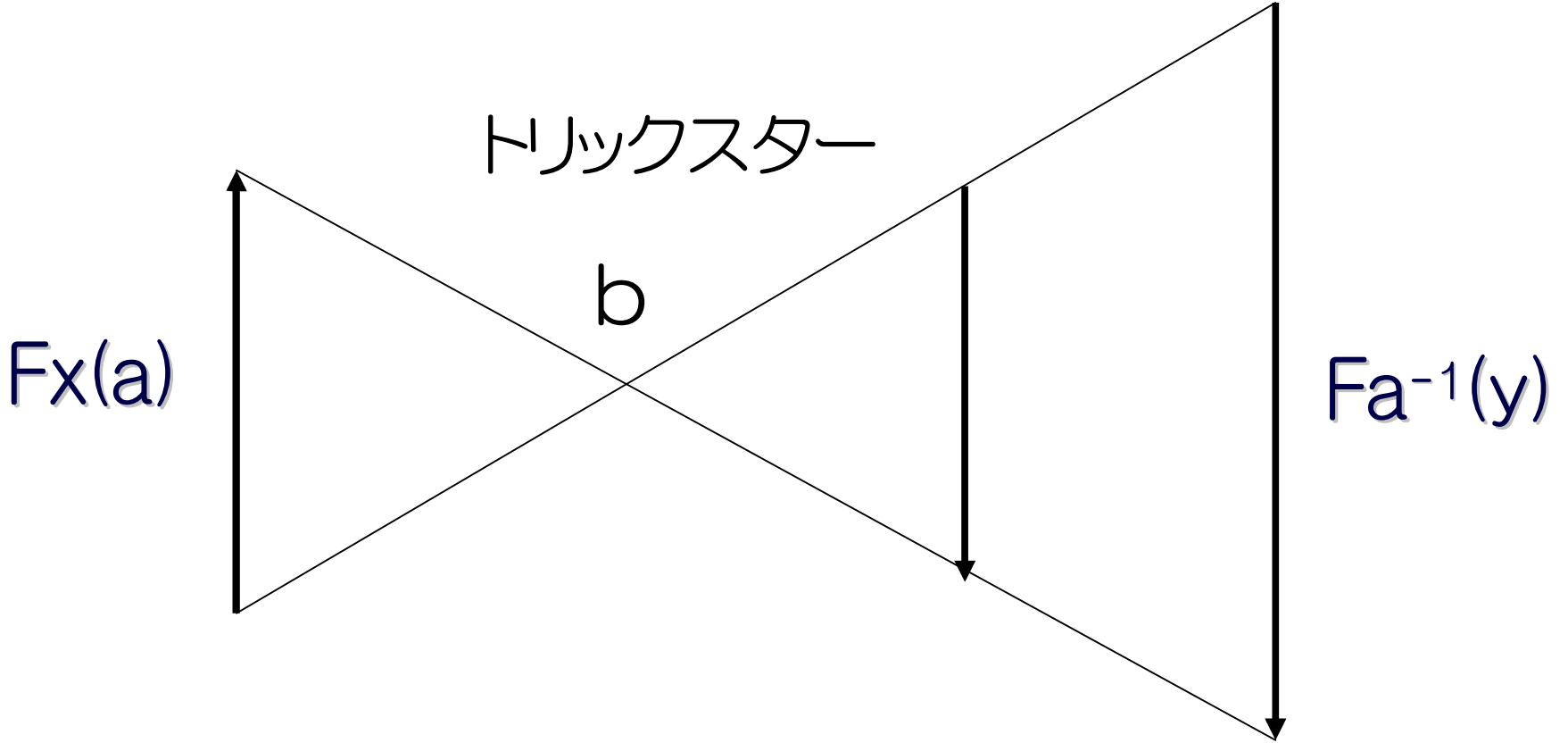
=



# キアスム



# キアスム図式(交差理論法)



分離→結合→再分離

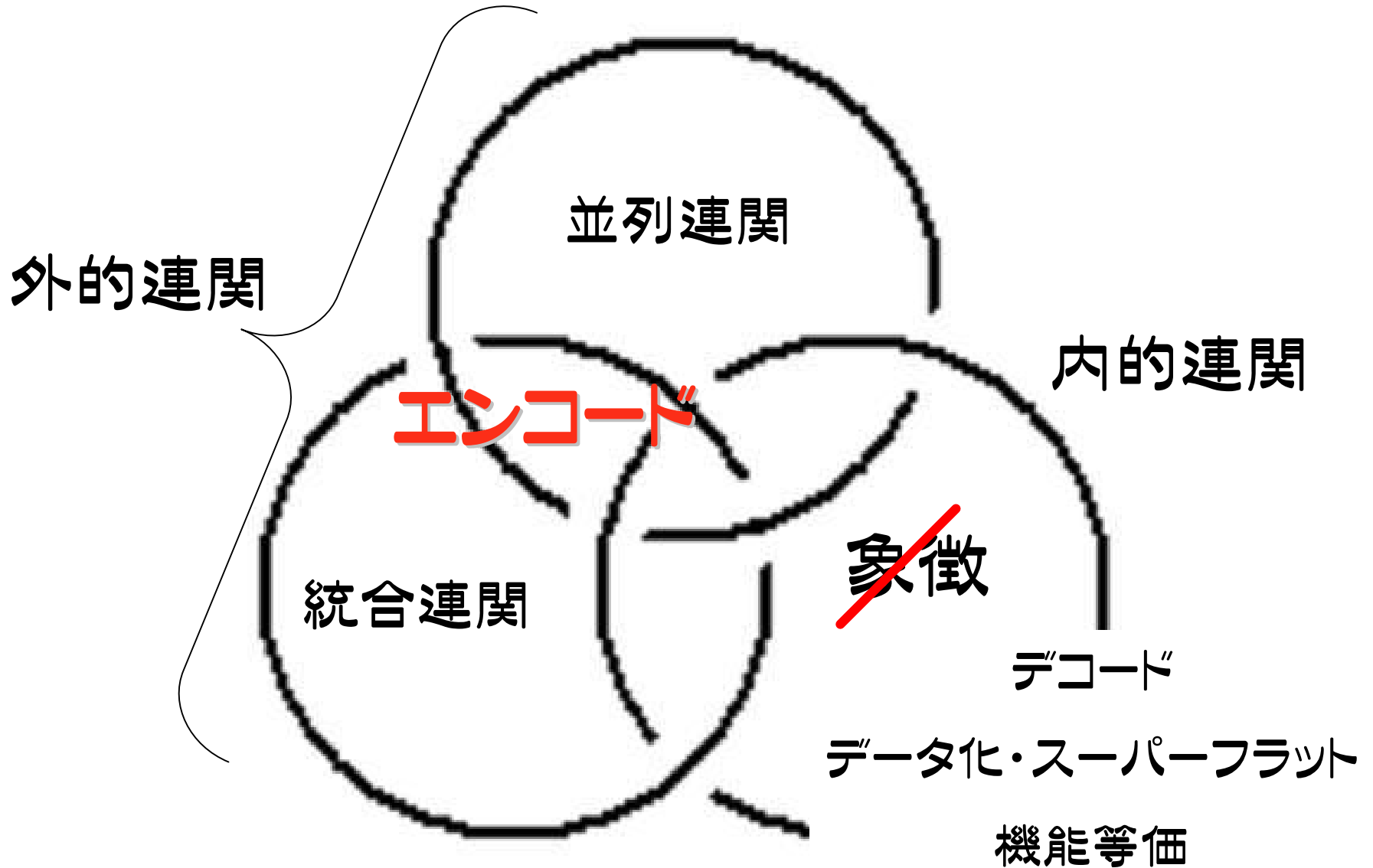
# 神話のアルゴリズム

$$F_X(a) : F_Y(b) \simeq F_X(b) : F_{a^{-1}}(y)$$

:はアナロジー関係

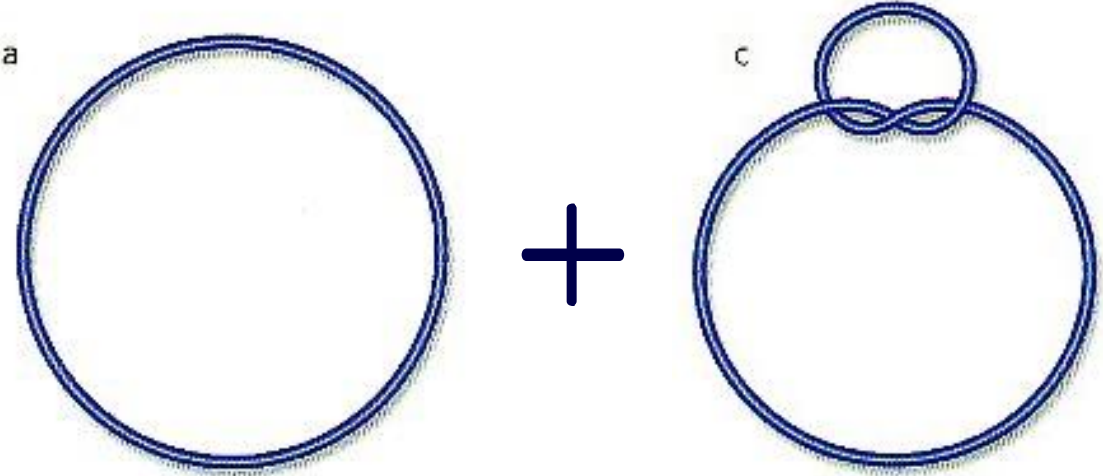
クロード・レヴィ=ストロース

# 象徴の一部否定



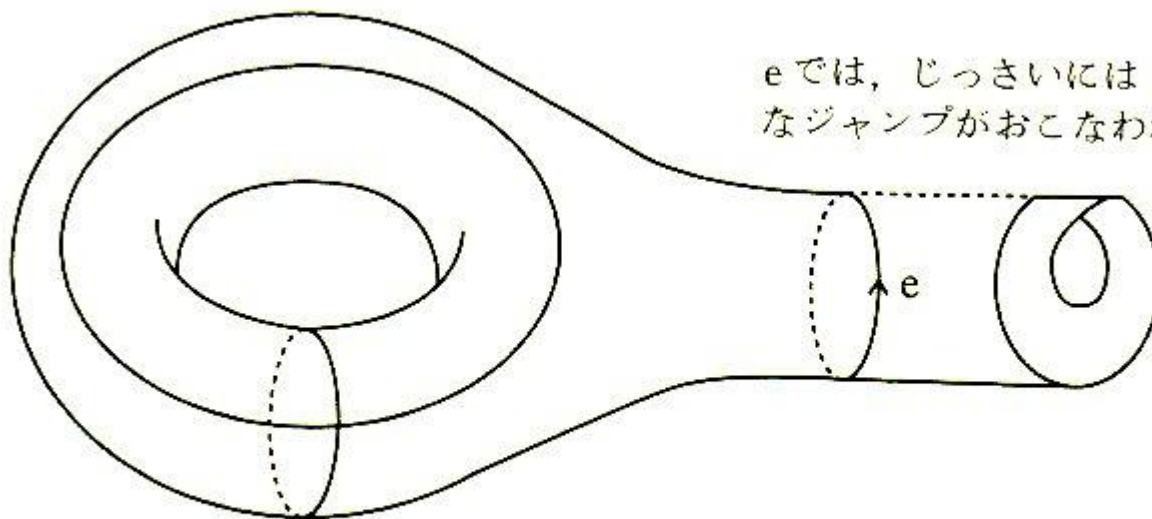
実践は  
ダブルバインド  
となる

# 組合のトポロジー





# IT化のトポロジー



eでは、じっさいにはトポロジカルなジャンプがおこなわれる。

トーラスとメビウスの帯を連結したイメージ

中沢新一 『芸術人類学』:p91



# もちどつとこむ

ご清聴ありがとうございました。

桃知 利男



E-mail [pinkhip@gmail.com](mailto:pinkhip@gmail.com)

URL <http://www.momoti.com/>

ご面倒でも私宛の連絡はメールでお願いいたします。